

# あかめやなぎ

## 学校評価特集号

### はじめに

本校では、日々の教育活動について振り返り、児童により良い教育を行うために年度末に学校評価を実施しています。

過日、教職員による自己評価を行うとともに、保護者や児童、地域の方々からの学校診断アンケートを参考に考察したものを「令和5年度 自己評価結果報告書」としてまとめました。さらに、その評価結果を「学校関係者評価委員会」の名の方々へ提示し、貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。以下、学校評価の概要として掲載いたします。

### ◇ 学校関係者評価委員会による評価

#### (1) 評価結果

質問内容	評価	適切である	ほぼ適切である	課題が多い	不適切である
本校の自己評価は適切に行われているか		10	0	0	0
地域に開かれた学校として機能しているか		10	0	0	0
学校運営の改善に向けた努力をしているか		10	0	0	0

#### (2) 主なご意見

(細部の表現については、省かせていただきました。また、原文は敬体でしたが、常体で記載いたしました。)

○：感想・肯定的意見 ◆：要望・提言等

- 学校だより「あかめやなぎ」を毎月興味をもって見ている。学校の動きがよく分かる。
- 「特色ある学校づくり」について、学年の行事や地域学習活動などに地域の一員として参加している。児童たちが地域のこと、自然のこと、人との関わりなどに関心をもって行動し、知ろうとする姿や気持ちは素晴らしいといつも感心している。これからも各種行事への参加をして児童たちと接したり、見守り安全に努めていきたいと思う。
- 登下校時に大きな声であいさつをして、手をあげて横断している。児童から「朝の見守りありがとうございます。」と感謝の言葉を言われ、しっかりしているなど感じた。
- 校長先生をはじめ、先生方が子供たちをよく理解し、良い関係を築き、対応していると感じている。地域の者として感謝している。
- 学校運営協議会に関わらせていただき、朝日小学校が地域に開かれ、地域の方々の協力があって子供たちの活動が行われていることを実感した。おたよりなどで地域の方が様々な活動に参加、協力していることは知っていたが、どの様な方がどの様な協力をしてくれているのかを保護者としてあまり理解できていなかったと感じた。
- ◆学校だより「あかめやなぎ」の発行、ありがとうございます。学校の教育活動が具体的に分かり、大変ありがたいです。毎月大変だと思うが、継続をよろしく願います。
- ◆朝日小は地域の方々の全面的な協力のもと、「地域の核」として立派に経営・運営されている。今後も弦間校長のもと、職員チーム一丸となつての活動の推進を期待している。
- ◆一人一台端末の有効活用に努力しているとのこと、まだ具体的な評価は時間がかかり難しいですね。新聞活用のNIE実践校に認定されていると聞きました。何か実践されたのでしょうか。ICTの活用と並行して、新聞等の活用も必要かと思う。
- ◆ 多くを要望しない。現在ある課題の解決を1つ1つ丁寧に遂行してほしい。
- ◆ 地域との連携・行事等において、学校は参加するが保護者(家族)にも積極的に協力をお願いしたい。

	サンプル数
教職員自己評価	11名
学校診断アンケート(保護者用：全家庭対象)	91名
学校診断アンケート(児童用：全校児童)	143名
学校診断アンケート(地域用：運営自治会の役員、各種団体長、学校評議員等)	18名
達成率の算出方法 例：評価基準 4=大変良かった 3=概ね良かった 2=やや課題が多い 1=問題である	
*達成率=総点 (4×4の評価人数+3×3の評価人数+2×2の評価人数+1×1の評価人数)÷(4×総人数)×100	

## I 教職員による自己評価集計結果からの考察

(◇考察【改善点】を載せました。)

### 【教科指導において】

- ◇「学習規律の定着」と「見通しや振り返りを意識した授業改善」の評価が前年度に比べ、向上している。コロナ禍の活動制限が緩和され、各自が授業を再点検し、「学習規律の確実な定着をベースに不断の授業改善を行う」という視点で、考え直すことができたからだと思う。
- ◇「主体的・対話的で深い学びの視点からの問題解決的な学習」については、前年度－9.4%と大幅に低下してしまった。年度始めに確認した「あさひ学びのルール」を再度全教職員で共通理解し、その継続と徹底を図っていく必要がある。
- ◇「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業の研究を続けて8年目になる。発問や課題設定の場面を工夫したり、見通しや振り返りを意識したりした授業を行っている。また、今年度の研究の柱を「ICTの効果的な活用」とし、昨年度以上に各教科において一人一台端末の活用が進んだ。今後も、学習の道具としてより効果的な活用を探りながら、全教科で「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を推進していきたい。
- ◇「家庭学習」充実のため、家庭学習の手引きを活用して、宿題や自主的な学習への取り寄せ方を検討し、家庭との連携を深めてきた。しかし、前年度と同じであるものの、R3年度比－4.2%と低い水準を続けている。家庭での生活習慣を見直していくと共に一人一台端末の効果的な活用を探っていく必要がある。また、長年の取組で、家庭学習の習慣化が浸透しているが、個人差が大きい。家庭との連携を深め、「家庭学習」の推進をより一層進めていきたい。

### 【改善点】

- ①「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業で、基礎基本を確実に指導して習得させ、知識や技能を活用できる授業を継続するとともに、全教科で積極的に実践を重ねていく。
- ②「あさひ学びのルール」について、気を緩めることなくその意義を全教職員で意識し、各学級で指導の徹底に努める。
- ③GIGA スクール構想で導入した一人一台端末、今後も積極的にかつ効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を更に推進していく。
- ④家庭学習への取組が不十分な児童に対しての個別指導を継続し、粘り強く進める。また、一人一台端末を有効活用していくために家庭での活用状況を検証し、家庭への啓発を進めていく。

### 【道徳教育において】

- ◇「特別な教科 道徳」がスタートして6年目となり、授業の展開も確立されてきた。児童の「人間関係形成能力の不足」や「規範意識の低下」等が指摘されている現在、コミュニケーション能力の育成や規範意識の高揚が喫緊の課題となっている。道徳教育については、いじめ対策とも相まって、自他を大切にすること等、道徳的実践力をさらに高めたい。
- ◇どの項目も前年度比－10.7%、－4.3%、－7.5%と大幅に低下している。教職員の「更に効果的な道徳の授業を展開したい」や「もっと道徳的な実践意欲や実践力を高めていきたい」という姿勢の表れではないかと考える。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点で、“考え議論する道徳”の授業を中心とした道徳的実践力の向上を目指した取組を継続していく必要がある。

### 【改善点】

- ①「特別な教科 道徳」の実践的な研究を推進する。資料を収集するとともに授業研究を実施し、効果的な授業の在り方を確認する時間を確保する。
- ②適切な児童理解に心がけ、心の居場所づくりに努め、自他を尊重する態度の育成を図る。

### 【総合的な学習の時間において】

- ◇「各教科との関連を考慮しながら、横断的な学習を仕組むことができた。」が、前年比＋9.4%となり、大きく向上した。各学年において社会科や国語科、英語、外国語と関連した学習が行われた。
- ◇「児童一人一人が自ら課題を解決していく授業を展開することができた。」が、前年比－3.1%と若干低下した。各教科と同様、一人一台端末を効果的に活用し、一人一人が自ら課題を設定し、解決していく力を育むことを今まで以上に意識していく必要がある。

### 【改善点】

- ①今年度の実践を基に、より一層効果のある教科横断的な学習を意識した問題解決的な学習を進めていく。
- ②児童一人一人の「なぜ」や「どうして」という気持ちや疑問を大切に、一人一台端末を効果的に活用した学習活動を意図的、計画的に進めていく。

### 【生徒指導において】

- ◇月例の生徒指導・特別支援会議の他、必要に応じて臨時に生徒指導上の課題を全教職員で共有するとともに、全職員一丸となり児童の指導にあたることができた。その結果が「いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、いじめが発生、あるいは疑われる場合には適切に対処し、早期に解決を図ることができた。」の項目が前年度比＋9.4%と大幅に向上となった。

- ◇時間のない中でも、児童に寄り添いながら、教師と児童とのふれあいを深めていった。児童の実態を見極め、迅速にかつ適切に家庭と連絡を取りながら、指導にあたることができた。
- ◇「場に応じたあいさつ」や「正しい言葉遣い」は、前年度比-6.4%となった。児童会活動で年間を通しての全校での組織的な取組を行っているが、今後も継続して指導していきたい。
- ◇「朝日小いじめ防止基本方針」に則り、学校長自らが推進役となり、いじめ0を目指す取組をしてきた。職員がいじめに対する方針を共通理解し、いじめの未然防止と早期発見、迅速な対応に組織的に取り組むことができたと考えている。児童のアンケートも有効に活用し、積極的にいじめの認知を行い、重大事態に至らないよう解決することはできた。更に今年度は11月に「北中ブロックいじめ防止会議」を3年生以上でオンラインで開催した。初めての試みであったが、地域全体でいじめをなくするという貴重な機会となった。
- ◇「朝日小学校のきまり」に関する項目を今年度から加えた。今後も学校きまりを保護者や児童と考えていく（見直していく）と共に、全教職員で共通理解し、同じ歩調で一貫した指導をしていく必要がある。

#### 【改善点】

- ①生徒指導上の課題を全職員で共有し、組織的に早期に対応していく取組を継続・強化していく。
- ②引き続き、進んであいさつすることへ取り組み、児童の礼儀の定着や情操面の成長を児童会も活用しながら、組織的かつ継続的に促していく。
- ③「いじめは絶対に許さない」という共通理解の下、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応、再発防止に組織的に取り組んでいく。

#### 【健康・安全教育において】

- ◇新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたとはいえ、インフルエンザなども含めた各種感染症予防対策に取り組む1年間だった。感染症の状況によって、教職員、児童、家庭の共通理解と協力・連携を図り対処することができた。
- ◇「**学級指導や道徳の時間を通して、積極的に『命の学習』を実践することができた。**」は、今年度も5年生で講師を招聘しての命の学習の授業を実施することができた。
- ◇家庭学習と合わせて、生活リズムの改善について、家庭の協力も得ながら指導を続けてきた。今後も家庭との連携を深めていきたい。
- ◇「**常に防災・防犯上の危機管理意識を持ちながら、児童の安全確保に努めることができた。**」が達成率87.5%と高水準であるが、100%を目指さなければならない。避難訓練や計画的な安全指導を続けるとともに、危機管理マニュアルの不断の見直しやより実践的な訓練の実施をしていく必要がある。また、今年度も不審者対応の避難訓練を甲府警察署の協力を得て、より現実に近い状況で実施し、課題を共有することができた。

#### 【改善点】

- ①各種感染症予防のための取組を継続していく。
- ②家庭との連携をより一層強化して「早寝、早起き、朝ご飯」など、児童の1日の生活のリズムを確立する取り組みを継続して行い、定着させるように努める。
- ③学校安全計画を見直し、より実地的な計画の作成と指導を行っていく。

#### 【特色ある学校づくりにおいて】

- ◇例年、学年の行事や学習活動などに、たくさんの地域の方々関わってくださり、たいへん助かっている。いくつかの行事は規模を縮小したり、内容を工夫せざるを得ない状況であったが、今年度は、コロナ禍により昨年度まで中止していた「ほうとう作り」も実施することができた。そのため、「**朝日小の身近な自然や地域素材・人材を活用した授業を展開することができた。**」の達成率が、前年度と同じ91.7%と高い水準であった。
- ◇「**教育活動全般を通して、主体的・対話的で深い学びを意識した取り組みができた。**」の達成率が前年度比-6.2%であった。今年度は「主体的・対話的で深い学び」に関係する項目の達成率が下がっているが、教職員の意識が、より質の高い児童の話し合い活動や学びを求めているのではないかと考える。
- ◇外遊びをしている児童も、時計を見ながら自然に教室に戻ることができる。ノーチャイムは自然な形で定着している。しかし「**ノーチャイムなどにより、児童一人一人が自主的・自発的に行動できるように指導することができた。**」の達成率が前年度比-5.6%である。今後は清掃への取り掛かりや次時の授業準備など外遊び以外でも自主的、自発的に行動できるように指導していきたい。

#### 【改善点】

- ①豊富な地域素材・人材を生かした授業が朝日小の特徴となっている。今後も地域との連携を深め、地域に誇りを持ち地域を愛する児童を育てていきたい。また、児童や家庭に向けて、地域の行事への参加を促し、地域とのつながりを意識させるよう取り組んでいく。
- ②「ノーチャイム」から、さらに児童の時間への意識を「自主的・自発的」な行動につなげる取組を、児童会と協働するなど、様々な方法で工夫していきたい。

## 【評価において】

- ◇各学級とも評価基準を明確にしながらか「客観的な評価」を行うように努めている。しかし、「各教科の評価基準を明確にし、各種の資料を基に、より客観的な評価を行うことができた。」の達成率が前年度比-11.9%と4年連続で低くなり、過去5年間で最も低くなってしまった。今回の結果を真摯に受け止め、全教職員で評価について、資料、方法などを再確認するとともに、一人一台端末でのデータの蓄積による児童一人一人の変容を確実な見取りなどを行い、より客観的で根拠のある評価をしなければならない。
- ◇「評価と指導の一体化」についても、今後もしっかりと取り組んでいかなければならない。

## 【改善点】

- ①「児童の様子の見取り」や「ノートや一人一台端末のデータからの思考の読み取り」、プリント等を、次の授業に生かしていけるように蓄積していく。
- ②一人一台端末を有効活用し、児童の実態把握に努めた上で、絶対評価を基本にし、適切な資料の作成を通して、より客観的な評価を心がける。また、結果を指導に生かす取組を継続する。

## 【その他】

- ◇「開かれた学校づくり」に向けた取組については、新型コロナの5類移行により、達成率が前年度比+1.8%と向上した。また、「PTA活動の充実」も前年度比+7.1%であった。PTA活動については、今年度から夏休みの親子清掃や各学年のPTA親子活動が再開されたことが大きく影響している。今後も、学校便りや学年便り、ホームページでの掲載等を積極的に活用し、「信頼される学校」を目指し、全教職員で共通理解を図りながら体制を整えていきたい。
- ◇今年度から「SDGs」や「ICT機器(クロムブック)」に関する項目を加えた。どの項目も達成率が70%台であり、今後も意識して取り組んでいく必要がある。

## 【改善点】

- ①地域との更なる連携やPTA活動の充実に図りながら「開かれた学校づくり」の一層の推進に努める。
- ②学校行事やそれぞれの学年の学習に関わる地域の方の人材活用を積極的に見直し、更なる活動の活性化と修正を試みる。また、今後も学校運営協議会を活用し、地域の方を外部講師や学習支援のボランティアとして、積極的に依頼していく。

## II 学校診断アンケート(保護者用)集計結果からの考察

### 【学校教育全般について】

◇学校教育全般にわたる平均達成率は84.8%となっており、比較的高い値を示している。特に「学校は、様々な体験活動を取り入れながら、豊かな心をもった子どもの育成に努めている。」が達成率88.2%(前年度比+1.6%)、「学校は、家庭や地域と連携しながら教育活動を進めようと努めている。」が89.0%(前年度比+2.7%)、「学校は、正しい言葉遣いや場に応じたしっかりとした挨拶ができる子どもの育成に努めている。」が84.9%(前年度比+4.5%)、「学校は、いじめの未然防止や早期発見に取り組み、いじめのない学校づくりに努めている。」が85.2%(前年度比+1.9%)と向上している。これは、朝日小学校の全教職員が共通理解の下に取り組んでいる姿が確実に保護者に届いている証であると考えられる。今後も更なる向上を目指して不断の努力を続けていく。一方、「教育目標『ともに生きる』を達成するために、朝日小学校が取り組んでいる具体的な教育活動は良いと思う。」が83.0%(前年度比-4.1%)、「学校は、基礎・基本の定着を図りながら、自ら考え、自ら学ぼうとする子どもの育成に努めている。」が84.6%(前年度比-1.7%)と低下し、どちらも過去5年間で最も低い水準となっている。今後は、更に「わかる・できる喜び」を味わうことができる授業づくりを行い、全ての児童に学ぶ楽しさを感じさせるとともに、それぞれの教育活動における教育目標との関連も周知していく必要がある。

◇今年度から「SDGs」に関する項目を新たに加えた。達成率は、81.3%であり、保護者にも各種便りや資料などの様々な場面で啓発していく必要がある。

### 【子どもの様子について】

◇平均達成率は83.9%(前年度比+0.2%)と概ね良好ではある。しかし、「子どもに毎日の家庭学習の習慣が身に付いている。」が達成率76.9%(前年度比-0.3%)、「子どもは、学校の授業が楽しく分かりやすいと言っている。」が79.1%(前年度比+2.5%)であり、低い水準である。今後は、子どもたちに今まで以上に「学ぶ楽しさ」を味わわせることができる授業を行うとともに、一人一台端末をさらに効果的に活用していく必要がある。また、「子どもに、「早寝、早起き、朝ご飯」の基本的な生活習慣が身に付いている。」が前年度比-3.1%であり、過去5年間で最も低い水準である。今後は学級指導や保健指導、各種便り等を通して望ましい生活習慣の確立に向けて粘り強く取り組んでいく必要がある。

### 【指導について】

◇平均達成率は86.3%(前年度比+0.1%)である。2年前に減少率が大きかった「子どもの理解」や「家庭との連携・相談への対応」が前年度比+0.4%、+0.2%と微増しており、徐々にではあるが良い連携が図られてきている。

- ◇「**学習指導**」や「**間違っただ行動への指導**」については、前年度比－1.2%、－1.1%と減少している。保護者からの学校に対する「**学習指導**」と「**生活指導**」への期待が高いことが読み取ることができる。今後も授業づくりと学級づくりを両輪とし、保護者と連携して指導にあたっていくことが求められている。
- ◇今年度から「**ICT機器の活用**」に関する項目を加えた。達成率が88.7%と高く、授業参観や一人一台端末の家庭への持ち帰りなどを通して理解が深まっている。

#### 【家庭や地域との連携について】

◇平均達成率は88.9%、前年度比＋3.1%である。全ての項目において前年度を上回った。特に、「**学校は、地域の行事に積極的に協力し、家庭や地域と連携しようとしている。**」が86.8%（前年度比＋4.0%）と大きく増加している。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域の行事が再開されていることが影響している。また、保護者からの「**旗振り当番の負担軽減**」の要望に応えたり、「**学校のきまり**」について保護者の意見を参考にしながら見直したりしたことなどを通して、学校と家庭・地域との連携が深まってきている。

### Ⅲ 学校診断アンケート(児童用)集計結果からの考察

- ◇「**1 学校は楽しいですか**」の達成率は、86.5%（前年度比（前年度比－0.2%）だった。約4年間の新型コロナウイルス感染症の影響は大きいですが、今後も、学習指導と学級づくりを両輪とし、児童の実態を的確に把握し、必要な指導を適切に行っていききたい。
- ◇「**2 学校には仲のよい友達がありますか**」は高評価であり、達成率は、96.9%（前年度比＋4.3%）であった。今後も、児童の様子をこまめに観察し、より良い人間関係づくりを目指していききたい。
- ◇「**3 自分は友だちや先生によく挨拶をしますか**」の項目は、87.2%（前年度比＋3.0%）だった。教職員アンケートでは86.1%、保護者アンケートでも84.9%であり、ほぼ同水準である。しかし、挨拶は人間関係づくりの基本であり、児童の今後の人生においても大切な生活習慣であるため、今後も児童会活動とも連携し、100%を目指して取組を推進していききたい。
- ◇「**4 クラスの中にいじめはありませんか**」は、91.4%（前年度比＋10.5%）と大きく向上した。これは、全教職員が「いじめは、いつ、どのクラスでも起こる可能性がある。」「被害者が苦痛だと感じているものは、いじめである。」という共通認識の下、いじめの未然防止や早期発見に早期対応に努めてきた結果と言える。また、今年度は「北中ブロックいじめ防止会議」などの取組を行い、そのことを意識した結果であると思われる。今後もより一層、「朝日小いじめ防止基本方針」の周知徹底を図り、取り組みを発信していくと共に、常に児童の様子に注意し、いじめに対する警戒を緩めることなく、「いじめ0」を目指して、今後もいじめ防止の取り組みを組織的に続けていききたい。
- ◇「**5 授業はわかりやすいですか**」の達成率は、87.2%（前年度比－3.1%）であり、「**6 授業は楽しいですか**」は、82.2%（前年度比－1.8%）と低下し、ここ5年間で最も低い。前述の教職員評価で【**教科指導**】において「**問題解決的な学習**」や「**考え・議論する道德の授業**」、**「主体的・対話的で深い学びを意識した取組**」が大きく低下したことも関連があると思われる。今後も学習規律の定着を含め、主体的・対話的で深い学びの視点からの更なる授業改善、授業力向上の校内研究及び、教師としての資質向上、並びに専門性を高めるため、一層の研鑽に努めたい。
- ◇「**7 授業中、自分の考えをよく発表しますか**」の達成率は、72.8%（前年度比＋3.6%）であり、毎年低い傾向がある。新型コロナウイルス感染症の5類に移行に伴い、話し合い活動や発表の機会が増えてきたことや一人一台端末の活用で発表の仕方が多様化されたことも影響していると思う。今後も、自分の考えを発表する機会を設定し、多くの経験を積ませていく必要があると思う。
- ◇「**9 授業でわからないことについて、先生に質問していますか**」の達成率は74.6%（前年度比－2.4%）であり、ここ5年間で最も低い結果となった。今後、より一層授業展開を工夫し、学力向上に努めると共に、授業内の学習感想での質問や家庭学習との関連、一人一台端末の活用などを行い、質問しやすい環境づくりに努めていききたい。
- ◇「**11 先生にはなんでも相談できますか。**」の項目の達成率は76.4%（前年度比＋0.3%）、**「14 休み時間や放課後、先生と話す時間がありますか**」も達成率が72.1%（前年度比－3.3%）であった。教職員が日々、様々な業務に追われているが、最も大切なのは、目の前にいる児童である。コロナ禍で人間関係が希薄な時期を過ごした児童にとって、様々な活動や交流の再開が大きな不安につながることもあるはずなので、より一層、児童に寄り添った指導をしていかなければならない。
- ◇「**17 地域の行事には進んで参加していますか**」の項目の達成率は69.1%（前年度比－5.0%）であった。今年度から様々な行事が再開されている。今後も保護者にも地域行事の意義や「**地域とともにある学校**」の意義を訴えていくとともに、児童へ呼びかけを継続し、向上を目指したい。

◇「**SDGs**」、**「ICT機器**」の項目は、今年度から加わった。特に「**SDGs**」に関する項目の達成率が低いので、総合的な学習の時間や学級活動、学校行事などの際に折に触れて関連性や大切さを実感させていききたい。

### Ⅳ 学校診断アンケート(地域用)集計結果からの考察

#### 【教育目標・経営方針について】

◇地域の方々には、学校教育目標、経営方針等について、ご理解をいただき、全面的にご協力をいただいている。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、再開された行事もあり、様々な機会を利用して、子供たちの学習活動に対してお力添えをいただいた。また、学校だより「**あかめやなぎ**」には、よく目を通していただいている。活動の紹介だけでなく、今抱えている課題や今後の取り組み等の情報発信も心がけた。今後も学校だより等を通して、できる限り学校の教育活動の成果や課題等の情報を発信しながら、地域に信頼される開かれた学校づくりを目指していききたいと考える。

【子供の様子について】

- ◇「朝日小学校の子供たちは、全体的によい子だと思う」の項目は94.4%、「朝日小学校には、礼儀正しい子供が多いと感じている」の項目も91.7%と今年度も高評価をいただいた。また、「朝日小学校の子供たちは、しっかりとあいさつすることができる」は86.1%（前年度比+1.3%）と、わずかながら向上したことから、礼儀やあいさつ、ルールを守るなど、地域の方々にも積極的に指導していただき、あわせてそれを素直に受け入れる子供たちの心の醸成が、確実に進んでいっている様子が伺われる。
- ◇「朝日小学校の子供たちは、地域の行事などに積極的に参加している」は、76.4%（前年度比-4.2%）と減少している。今年度は、地区の運動会なども復活し、それに参加する子もいるものの、スポーツ少年団や習い事などにより参加できない子も増えているからだと思う。今後も継続して、多くの子供たちが地域の行事などに参加できるように、家庭や地域との連携を深めながら、参加の呼びかけを続けていきたい。
- ◇「朝日小の子供たちは、外で元気よく遊んでいる」の項目は、78.3%（前年度比+0.2%）であるが、コロナ前と同程度の達成率であることを考えると、社会全体で子供たちが自由に遊ぶことができる場所が減少しており、外で遊ぶ姿を見る機会があまりないことも影響していると思う。

【職員について】

- ◇「朝日小学校の教職員は、気持ちのよい対応をしてくれる」は97.2%の高評価をいただいた。教職員一同、地域の方々のご協力に感謝の気持ちを表すとともに、より一層丁寧な対応を心掛けていきたい。

【地域との連携について】

- ◇「朝日小学校の教職員は、地域の活動に熱心に取り組んでいると思う」は、ともに95.8%と前年度同様の高評価である。今後も地域との連携を大切にしていきたい。
- ◇「朝日小学校の保護者は、地域の活動に熱心に取り組んでいると思う」は82.4%（前年度比+0.5%）である。過去5年の経過を見ると少しずつ向上している。今後も学校でも、保護者が地域の活動に参加する機会を増やすなどの方策を探っていきたい。
- ◇今年度から「SDGs」及び「ICT機器」に関する項目を加えた。どちらも達成率90.6%、92.6%と高評価であった。今後とも積極的に取り組んでいきたい。

紙面の制約上、抜粋での掲載となりましたが、まとめさせていただきました。本年度の学校評価を実施するにあたり、公私ともに忙しい中、ご協力を賜りました学校関係者評価委員の皆様をはじめ、地域の各種団体の皆様、保護者の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。  
なお、アンケートの集計結果の詳細についての問い合わせは、朝日小学校（TEL055-252-3373）までお願いします。

